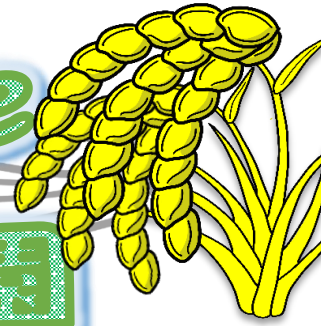




Agri Note

【アグリノート】

ハナエチゼン・コシヒカリ情報

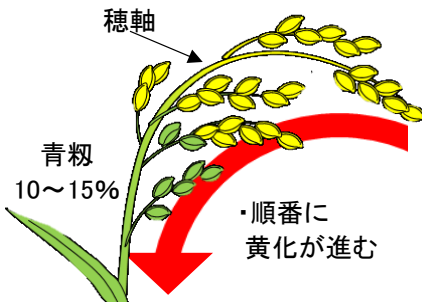
田園

JA福井県

9月に入り、中生品種の刈取りが本格的に始まっています。今夏も高温が続いたため、適期収穫と丁寧な乾燥・調製が品質を大きく左右します。早刈りは青未熟粒が増えて収量が落ち、遅刈りは高温による胴割れ粒や茶米の発生、倒伏リスクが高まります。出穂後の日数から予測し、圃場ごとの黄化率をこまめに確認するなど、確実な適期刈取を実践しましょう。また、刈取り後は来年の米づくりに向けた土づくりに早期から取り組みましょう。

1. 適期刈取

早刈りは食味の低下、遅刈りは胴割れ米の原因になります。また刈取り間際まで間断通水を実施することでも胴割れ米防止につながります。適期刈取で品質アップを行いましょう。



【刈取のタイミング】

- 籾の黄化率85～90%以上（青籾10～15%以下）
- 籾水分25%以下
- 田んぼの中に入り、水分を確認したり、黄化率は感覚で判断せずに穂の粒を観察しましょう。

☆ 刈取りの時間帯は、早朝を避け、朝露等が乾いた後から開始！

【雑草の多い圃場】

ヒエやクサネム等の種子の混入が懸念されます。コンバイン作業の支障にならないためにも早めに圃場外に除去する必要があります。

2. 刈取後の雑草対策

営農指導員が生育期間に調査した雑草の発生状況は、『昨年より雑草が多い・やや多い』が約7割と高く、『発生の多い雑草』では、ヒエとホタルイが顕著な結果でした。

【稲刈り後の雑草対策】

稲刈り後も雑草は生長を続け、種子を実らせたり、地中で塊茎を形成するなど、繁殖を続けています。再生してきた雑草について次年度の雑草を減らす対策（除草剤散布）を行いましょう。

① 液材タイプのおすすめ

- 『ラウンドアップマックスロード』や『プリグロックスL』

★ プリグロックスLの「種子発芽後枯殺効果」

秋冬期散布することで、出穂している種子や土壌に落下した種子に付着して初期生育を阻害し、翌年のノビエ発生密度を低減します。



※ 散布時期や天候に注意！

低温は雑草の生育が停滞、散布直後の降雨は除草剤の効果が劣ります。

3. 来年に向けた土づくりと秋起こしの実施

① 土壌改良資材の散布

土壌の保肥力を高め、異常気象や病気への耐性を高めることにつながります。



② 粒剤タイプのおすすめ

- 『クロレートS粒剤』

★ 土中の水分で溶けた成分が、雑草の根や塊茎の表面・組織に直接接触、強い酸化力によって急速に枯死させます。

※ 医薬用外劇物

強い酸化作用を持つ非選択性除草剤（塩素酸塩系）であるため、使用・保管時には十分注意しましょう。

② 稲わらのすき込み

稲わらを分解する微生物は、地温が下がると活動が低下します。10月中旬までに実施しましょう。

【獣害対策】

ひこばえの放置を防ぐことは、シカやイノシシのエサ量削減にもつながります。被害の多い中山間地域では、秋起こしを地域で取組むことも必要です。

ケイ酸

- 倒伏しにくくなる
- いもち病にかかりにくくなる
- 登熟歩合が向上、千粒重が高まり品質が良くなる

リン酸

- 生育初期に分げつが促進される
- 食味が向上する

腐植

- 肥効が高まる
- 不良条件下でも収量が安定する

今回のアグリノート田園は、丸岡支店（営農経済課）平本が担当しました。